

キャラクター名  
【BC】ライゼン・ツヴァルト

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー オルクス	ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	クラブ・メイヘム
オプション		年齢	26	性別	男
覚醒	死	衝動	飢餓	初期侵食率	40 %
出自	名家の生まれ	経験	死神に嫌われた	邂逅	いいひと

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	1	1	0			2	行動値	8
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	8
精神	2	0	0			2	戦闘移動	13
社会	2	0	0			2	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		RC			交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: UGN幹部	
コネ: 噂好きの友人	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
亜純血	P	N		
ルテリア・ツヴァルト	P 慈愛	N 不安		
UGN	P 誠意	N 猜疑心		
赤金夏	P 信頼	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
紅の王	3	+3	常時					
効果:	HP消費の際のコスト-Lv							
ヒューマンズネイバー	1	+5	常時					
効果:	衝動ダイス+Lv							
オリジン: ヒューマン	1	2	マイナー					
効果:	シーン間達成値+1							
スーパーランナー	1	1	マイナー					
効果:	戦闘移動 シーン1回							
赫き剣	5	3	マイナー					
効果:	[Lv*2]のHP消費。[消費したHP]+8の武器生成							
破壊の血	4	2	マイナー					
効果:	赤き剣の攻撃力+[Lv*3]ガード値+5							
コンセ	2	2	メジャー					
効果:	c値-1							
形なき剣	1	2	メジャー					
効果:	ドッジダイス-Lv							
冥王の臓腑	3	6	メジャー				飢餓120	
効果:	ダメージダイス+[Lv+1]D。攻撃が成功しなかった場合、シーン値ダイス-3。シナリオ1回							
オーバーロード	1	3	オート				80	
効果:	攻撃力に+[使用している武器の攻撃力]する。その後武器破壊							
ブラッドリーディング	★							
効果:								
仕組まれた幸運	★							
効果:								
効果:								

「よっ。"Renegade"のvocalのえーあー、ライゼンだ。俺の歌、聴いてく？」

「なんで俺がバンドやることになったかはわかんねーけど、頼まれた以上はやらしてもらうかな」

「これでも元第一王子なんでね。日本の不良には負けねえぜ」

---

◆経歴  
今は亡きツヴァルト公国の元第一王子であった人間。  
過去に起きたUGNとFHの戦争に巻き込まれた際、妹を逃がすために奮闘し一度死亡している。  
しかしその魂は妹のルテリア・ツヴァルトの従者の中に魂として残り、奇跡的に命として確立することとなった人間のIFの世界線となる。

霧谷雄吾からの依頼により共に湾岸地区へ潜入。彼に任された役割は彼の創ったビジュアル系ロックバンドのvocalだった。  
彼自身の顔の良さを見込んだ霧谷による仕事ではあるものの、本人の性格の良さでファンサにより根強いファンができていくこととなった。  
しかし彼はクラブ・メイヘムで自警団として依頼を受けながら治安の悪いこの地区で行動を行っている。

◆パーソナリティ  
王族の出身とは思えないほどに気持ちの良い性格をしており、近所のいいお兄ちゃんのような印象を受ける。  
本人も自らの地位や立場といったものを他人に気にしないでほしいと思っているため、フランクに接するほうが好んでいる。  
溢れ出るカリスマ性からも人を寄せ付けやすいが、少々お茶目な一面が見え隠れする。